

全 員 協 議 会 記 録

令 和 7 年 1 月 24 日（金）

11 時 00 分 ～ 11 時 52 分

全 員 協 議 会 室

〔出席議員〕

笹田議長、川神副議長

肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、村武議員、川上議員、
柳楽議員、串崎議員、小川議員、上野議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、
永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

〔執行部〕

久保田市長、砂川副市長、岡田教育長、佐々木産業経済部長、久佐産業経済部
参事

〔事務局〕 下間局長、松井次長、大下書記

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 大手水産関係企業の浜田市への進出について (産業経済部)
- (2) その他

2 議会改革に関する検討結果について

- ・第9回報告 議会による事務事業評価について

3 その他

- (1) 自由討議について
- (2) 議案における各自の表決結果の記載について
- (3) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[11 時 00 分 開議]

○議長

ただいまから令和7年1月24日の全員協議会を始める。三浦議員から欠席の連絡を受けている。それでは議題に入る。

1 執行部報告事項

(1) 大手水産関係企業の浜田市への進出について

○議長

資料1を参照されたい。市長。

○市長

大手水産関係企業の浜田市への進出についての話がまとまったので報告したい。先に経緯について話すと、浜田市の水揚げが減っている中で新しい船団を確保する活動、同時に浜田漁港への県外船の水揚げ増加について、この2、3年、隠岐の島、境港、九州の長崎、下関、愛媛などへ要望活動を行ってきた。昨年8月、長崎県のある漁業体にお問い合わせに行った際に紹介いただいたのが、このたび協定を結ぶ企業である。本日夕方5時からその企業と、水産業の振興に関する包括連携協定を結ばせていただく予定である。

会社名は株式会社三陽（以下、三陽）。福岡市に本社がある。水産物の卸業からスタートされ、仲買、水産加工業、グループ企業11社持っておられる。従業員数はグループ全体で現在420人程度。単体では164名という大変大きな会社である。グループ年商を合わせると300億円超と伺っている。また、アジフライの売上高だけで50億円超という、西日本を代表するアジフライ工場も経営している。

これまで浜田港の水揚げをお願いしても、魚を買う力がないとなかなか水揚げしにくいので浜田市の買う力を強化してくれと言われてきたため、魚を買う力のある企業に来てほしいとの思いをずっと持っていた。8月に三陽を紹介され、10月に訪問し、浜田への水揚げをお願いすると同時に、浜田でアジなどの加工事業をやっていただけないかと話し、その後も何度かやり取りし、このたび基本合意がまとまった。

連携内容について、三陽が計画する施設とはアジフライ工場のことだが、その立地箇所の調整に関すること、二つ目に浜田漁港への水揚げ量及び水揚げ高増加に関すること、三つ目に鮮魚及び水産加工品の販売強化に関すること、四つ目に人材育成、こういった内容の協定をさせていただき、三陽の力を借りて浜田の水産業のさらなる発展につなげていきたい。

協定期間は今日から令和8年3月31日までと資料にあるが、これはあくまでも当面であり、当然継続を想定している。

当市が期待することとして、まずはアジフライなどの水産加工事業の開始である。現在長崎のほうで年間五十数億円規模のアジフライ工場を運営しておられるので、当

面は浜田でも20億円規模の事業を行いたいとの話を伺っている。それに伴う雇用の創出について詳細はこれから詰めるが、現在聞いているところでは従業員数90人くらいを想定しているとのことである。

アジフライはふるさと寄附でも人気商品らしいので、浜田の新たなふるさと寄附返礼品が創出できる。アジフライ工場を造るので外来船のアジの水揚げが期待できる。また、三陽グループで巻き網船団を持っておられるので、浜田漁港への水揚げ増加が期待できるかと思う。将来的には輸出のお考えがあるそうだが、幸い浜田は国際貿易港を持っており、冷凍冷蔵設備の整ったコンテナもある。こういったものを使っていずれ海外輸出もしたいといった意向である。これらは浜田市にとって大変うれしい話で期待している。

今後のスケジュールだが、本日連携協定を結ばせていただき、令和7年度には事業詳細を検討、また国のいろいろな支援も当たりながら計画を策定したい。令和8年度から事業に着手、令和10年度の遅くとも10月末までには操業開始したい。

浜田の水産業復活の大きな後押しになっていただけるものと期待している。

○議長

議員から質疑はあるか。

○牛尾議員

市長がポートセールスをされた結果がようやく出たのだと喜ばしく思う。少し心配するのは、アジフライで生産高20億円規模とのことだが、年間通じて稼働するとなるとやはりストックヤードが必要だろう。現行の冷凍庫はすでにいっぱいなので新たな冷凍庫の建設も必要になるだろうが、企業がおやりになるのか。

また、一説には魚種交代は70年周期説と30年周期説が言われている。イワシが姿を消し、アジも最近姿を消し始め、サバが見えてきた。大きな魚種の交代期にあるのではないか。その辺の問題を企業は今どのようにお考えか。

○市長

魚種交代だが、アジは日本各地でとれる。現在福岡でも九州でもとれている。島根県沖はアジの漁場となっている。そういう意味では今後もアジは十分確保できると思っている。アジフライの原料となるアジはおそらく、もちろん浜田港の水揚げを優先されるのだが、仮に足りなければ全国から仕入れることも当然お考えだろうから原料確保は大丈夫と思っている。

冷蔵庫の件もすでに欲しいと話が出ている。そもそもJFの冷蔵庫は30年以上たって老朽化している。冷凍冷蔵庫の必要性については認識しているため、昨年から市の関係者で冷凍冷蔵庫の研究会をやっていた。今後、三陽だけでなく冷凍冷蔵庫についても考えなければならない。JFと協力する話をしている。世の中は加工食品ブームでニーズもある。いずれにせよ整備の方向で考えて、必要な支援は行っていきたい。

○川上議員

本来なら産業建設委員会での報告が先にあるべきではないか。それがなかった理由だけ説明いただきたい。

○副市長

今日包括協定を結ぶに当たり相手方との協議において最終的な情報がなかなか出せず、この全員協議会の場が最初の報告となったことは申し訳ない。

○川上議員

連携協定の内容をもう少し詳しく披露できないか。

○市長

連携協定は、まずは一緒になってやろうという意味で結ばせていただいた。いろいろな課題については今後互いに協議しながら前向きに進めていくつもりだが、補足すると、まずアジフライ工場の建設を内々に合意している。立地は漁港エリアの県有地とすることも県と内々に協議しており、県も全面的な協力をすると喜んでくれている。このように関係方面とはすでに協議を開始している。具体的な話が決まれば、また報告したい。

○川上議員

以前の冷蔵庫の予定はご破算になったものとする。地元住民にとって全体最適になるようやってもらいたい。地元漁業者のためにあるべき話であることだけ理解していただきたいがいかがか。

○市長

冷凍冷蔵庫については国も、例えば水産庁の補助金であれば3分の2の補助などがある。どの程度の規模にするかは今後検討するが、今の冷蔵庫では足りないので新たなものが必要と思っている。これまで、高度衛生型管理荷さばき所も65億円くらいなかったが市の持ち出しは3億円強だったように、なるべく県国の支援を活用したい。そもそも市がやるのか民間企業がされるのか分からないが、もし市がやるなら負担は最小限になるように考えていきたい。

○川上議員

以前の計画はご破算になったのか。

○市長

ご破算にしたとJFは言われてない。まだ計画は続いている。今ある冷凍冷蔵庫は30年くらいたっているのも、そもそも老朽化の問題、キャパ不足の問題があった。JFも新しい冷凍冷蔵庫の必要性を認識している。JFや事業者とも相談しながら考えていきたい。

○川上議員

地元民との協議はしっかりとされているか。

○市長

昨年暮れに地元水産関係者の役員に向けてJFと一緒に説明したところ、皆にもご理解いただけた。浜田の水産業発展にとっては非常に良い話だ、皆支援するとお言葉を頂戴した。

○布施議員

年々、売上高も漁獲量も減ってきたところに、1社でとって加工して売る完結型事

業者を呼んでくるのは非常に良い。三陽の販売ルートの様子はどうか。アジフライとなるとブランド品とはなりにくいと思うが、他社製品との差別化はあるのか。

○市長

現在は九州のアジフライだけで五十数億円とは聞いているが、売り先まで詳細は把握していない。ただ、長崎から東京まで持っていくには運賃コストが非常に高いため、輸送コストの観点からも浜田は良いし、いつどこでどのような災害があるか分からない。現在は長崎に集中している工場を分散したいというお考えもある。そういった向こうのニーズにも合っていた。

売り先についてもおそらくスーパーなどだと思うが、様々なところに販売力を持っている。三陽のアジフライは大変評判の良い商品らしいが、浜田のアジの評判もご存じである。いずれにせよ売っていただくのは大歓迎なので協力していきたい。

○布施議員

浜田市としても新たなふるさと寄附返礼品を創出したいとのことなので、こういったところで新しいブランドを立ち上げてふるさと寄附返礼品に入れていただくことも大事だと思う。広報は市もしっかりバックアップしてもらいたい。また、専門的な人を立ち上げまで付けるような機構改革、水産振興課の職員増などの考えはないか。

○市長

浜田市で20億円の売上げを当面目指すと聞いているが、その中でふるさと寄附の部分はずっと少ない数字かと思う。長崎工場の設置自治体ではアジフライをふるさと寄附返礼品であちこちに宣伝しておられ、結構寄附があると聞く。浜田市のふるさと納税は一步先んじている。浜田市の返礼品の約7割は水産物である。そういう意味ではさらに強力な商品が加わったと思う。

体制については、まだ包括協定が今日結ばれる段階なので、状況を見ながら今後考えていきたい。

○村武議員

浜田で加工事業を進めていくに当たり90人くらいの雇用創出を期待されるそうだが、現在でも水産加工業に従事する人材が不足していると聞く。実際外国人も多く働いている。人材についてお考えがあれば教えてほしい。

○市長

20億円くらいの売上げを目指すなら現地で90人くらいは必要と聞いている。地元だけで人材確保できるとは思えず、外国人の雇用も想定されていると思う。実は三陽は外国人雇用の会社も持っており外部のエージェントを通さず自社でやっているの、人員は何とか確保できそうだと聞いている。

○肥後議員

現状より入港する船が増えるだろう。老朽化した燃料給油船の更新がなかなかできないと聞いているが、何か様子が分かれば教えてほしい。

○市長

燃料給油船の老朽化は確かにあり、J F も問題を認識されている。浜田港への巻

き網船の寄港が増えて燃料給油が必要であれば、その対応も考えていきたい。今日のところは具体にはなかなか言えないが、いずれにせよ事業を進める過程において、いろいろな課題が出てくるだろう。三陽とJFと共に解決していきたい。

○議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) その他

○議長

執行部からほかに報告事項があるか。

(「なし」という声あり)

では、執行部はここで退席されて構わない。

(執行部退席)

2 議会改革に関する検討結果について

・第9回報告 議会による事務事業評価について

○議長

資料2を参照されたい。議会改革の検討内容等については各会派で随時報告されていることと思うが、このとおり議会改革推進特別委員会から第9回報告として、議会による事務事業評価についての検討結果報告書の提出があった。

大きく3点ある。まず議会の事務事業評価と決算審査を次年度の予算編成に生かすことにより、議会の監視機能を強化し、課題の共有と事務事業の改善・適正化・効率化を図ることを目的として、議会による事務事業評価を導入することとする。次に、1年を通じて3常任委員会による所管事務調査を行いながら評価し、決算と当初予算を連動的に捉え審議する。また、事務事業評価シートを全議員が記入することにより対象の事業を可視化し、市民への説明責任を果たすことにもつなげ、各議員による事務事業評価実施後には、作成した議会評価意見書を市へ議案として提出することにより、議会の意志を表明することとする。最後に、実施に向けては必要に応じて執行部との協議や議会運営委員会等での検討を重ねながら進めることとする、というものである。議会による事務事業評価の本格実施については、先般12月18日の全員協議会で議会改革推進特別委員会の西田副委員長から説明があり、特に質疑もなく皆も了解されたことと思う。特別委員会ではその後も詳細部分について協議を重ねられ、今回の検討結果報告となっている。本日は西田副委員長から説明以後に変更となった主な3点について報告し、議員皆の了解をいただきたい。

次ページの本格実施の流れの表を参照されたい。まず1点目、常任委員会部分である。試行の際には「グループ」という表現も使ったところだが、1年を通じて3常任委員会による所管事務調査を行いながら実施していくとのことで、各委員会で事務事業

評価の協議をする際は正式な委員会として開催することとされている。

2点目として、事務事業評価を実施する場についてである。9月の試行実施の際もそうだったが、事務事業評価については予算決算委員会の中で予算決算委員長進行の下実施し、評価意見書の調整も委員会で行うこととしていた。しかしながら予算決算の審議と事務事業評価は別物であることから、特別委員会で検討され事務事業評価は予算決算委員会ではなく全員協議会の場で実施することとされている。事務事業評価の実施方法はこれまでの説明どおり変更はなく、協議する場が変わるということである。その部分が表の上から3行目、3月定例会議の最終日と、下から3行目の水色部分である。

3点目として議会評価意見書の議案の提案についてである。下から3行目の水色部分だが、これまでは予算決算委員会の流れの中で事務事業評価を実施することを想定していたため、3常任委員会が作成した議会評価意見書について決算審査の附帯決議に盛り込むことを想定していた。しかし決算審議と事務事業評価は先ほども言ったとおり別物であり、事務事業評価や議会評価意見書の調整を全員協議会の場で行うことから、決算審査の附帯決議とは別物として3常任委員会委員長による議案として提案することに変更されている。

以上、大きく3点が特別委員会でさらに検討して変更され、今回の報告に至ったところである。この件に関して確認しておきたいことがあるか。

(「なし」という声あり)

ないようなので、このとおり進めていく。皆もよろしく願います。最初に言ったが実施に向けて必要に応じて執行部との協議、議会運営委員会での検討を重ねながら進めることもご了承願う。

なお、2月7日の全員協議会で事務事業評価実施事業の選出について周知させていただく。

3 その他

(1) 自由討議について

○議長

何か自由討議を行いたい案件があるか。

(「なし」という声あり)

(2) 議案における各自の表決結果の記載について

○議長

事務局長。

○下間局長

ただいま配信した。タブレットに今回の1月臨時会議の表決結果の記載データを入れているので、本日中に必ず記入をお願いします。

(3) その他

○議長

そのほかに議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では私から1点相談したい。先般もあったように6月19・20日に万博で石見神楽が上演されるに当たり、議会としても盛り上げていきたい気持ちがあるので、議員有志で現地に行って盛り上げたい。副議長は万博神楽の実行委員会協議会に入っておられるので、今の状況も含めて少し話をしてもらいたい。

○副議長

関西万博神楽の実行委員会に参加している。6月19・20日の日にちは決定している。演出家がやっと決定するなど様々動き始めている。オール浜田で約150名が、今から様々な意見を伺いながら進めていく。6月19・20日は浜田市民向けの観光会社ツアーの募集もあるが、議会としてもぜひ応援していただきたい。浜田市の将来の神楽や観光面でも大きなアピールになる。せっかくなら議員の中から希望者を募りマイクロバスを借りるなど。宿泊も大変厳しいが、担当者に聞けば早急に取りまとめれば今なら何とか手配できる可能性があるとのことである。皆の意見を伺いながら応援しに行くのが良い方法なのではと議長と相談して、今日このように皆に話している。あくまでも強制ではないが、今の流れの中で浜田の勢いを我々も後押ししたい。皆からも意見をいただければありがたい。

○布施議員

大変良いことである。政務活動費が充てられるかどうかの判断はいつされるか。全員でないにしてもある程度の人数になった場合の移動や宿泊は難しいのではないかと。議会として行くかどうかの最終決断はいつ出されるのか。行くのであれば応援の統一感なども検討すべきではないか。

○議長

政務活動費の充当については検討させてほしい。マニュアルに照らして、市民の理解が得られるかも含めて検討したい。

宿泊についてだが、万博時期はホテルの予約がなかなか取れないが、副議長が言ったとおり今なら大丈夫ではないかとのことで、少し早いですが今皆の意向を聞いている。

応援グッズについては今後の課題になるかと思うが、もし統一するのであれば同じものを購入するのが良いかと思う。それも行くメンバーで要協議になると思う。

○牛尾議員

おそらくバスが出るとのことなので議員も市民と混乗になると思うが、市民は自腹で議員は政務活動費となると過去にも問題化したことがある。政務活動費は政務活動、万博の応援は懐の金で行くという、明確なラインを出されるのが良いかと思う。

○佐々木委員

具体的に我々の後押しとはどういったことを指すのか。政務活動費を使うにしても、本当に市民の目を見て後押しだと感じられることならある程度は理解されるかも

しれないが、ただ一緒に行って鑑賞するくらいでは後押しと言えるか分からない。具体的な後押しのイメージがあれば説明してもらいたい。

○副議長

昨日担当者と話したのだが、1900人キャパの会場を満員にするような勢いを付けてほしい、市民も議員もまずは現地に行ってもらいたいとのことだった。現地に行くことが盛り上げになると考える。また、これは私の考えだが、例えば浜田や神楽のPRチラシを配布するなどの広報活動の手伝いはいくらか議員にしてもらえるかとも考えている。行政職員だけでは足りない部分を議員に助けてもらえたらと思う。議員がぜひ地元文化を広めることが大きな後押しになる。

○議長

政務活動費はやはり調査に要する経費なので、応援や見るだけだと厳しいかと私は思っている。調査目的は何かということが必要と思う。それがないのであれば自費で行くことになると思う。

○川上議員

私も政務活動費については議長が言われたように、どう見てもそぐわないとだけ言っておく。

○議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

地元観光業者がそういったことを思っているとのことなので副議長と相談して、どういったことになるのかを次回の全員協議会で皆に提示して参加者を募りたい。この件についてほかにあるか。

○西田議員

浜田市議会として石見神楽を振興する、応援する立場でいると、万博で、1900人キャパの会場で、我々は席に座って鑑賞するのではなく周辺でいろいろな人にPRなどの活動をするなら神楽の応援になると思う。自分たちが行って楽しむならそれは趣旨が違う。応援動員に行くのではなく、石見神楽を見たことない方々に見ていただくために我々が支援をする。そういう目的をはっきりしておかないと。せっかく行って楽しむだけなら意味がない。

○議長

そういったこともスケジュールも含めて次回に提案したい。ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では副議長とも地元観光業者とも相談して、次回の全員協議会で提示したい。

○副議長

石見神楽振興議員連盟（以下、神楽議連）には現在全員が入ってはいないので、申し訳ないがこの場を借りて言いたい。先般神楽議連に関しては皆の意見を二日にわたって聴取させていただき、それを教育長と市長に伝えて、こういったことも検討してほしいという話をさせてもらった。事務局がその内容をまとめて、また皆に配信し

ようと思っている。我々の意見を執行部に伝え、しっかり施政方針なり今後の計画に反映され、またそれを我々も注視していく。そのように執行部に伝えている。また改めて報告する。

○議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

以上で全員協議会を終わる。

[11 時 52 分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 笹 田 卓